

存在感高め市場活性化

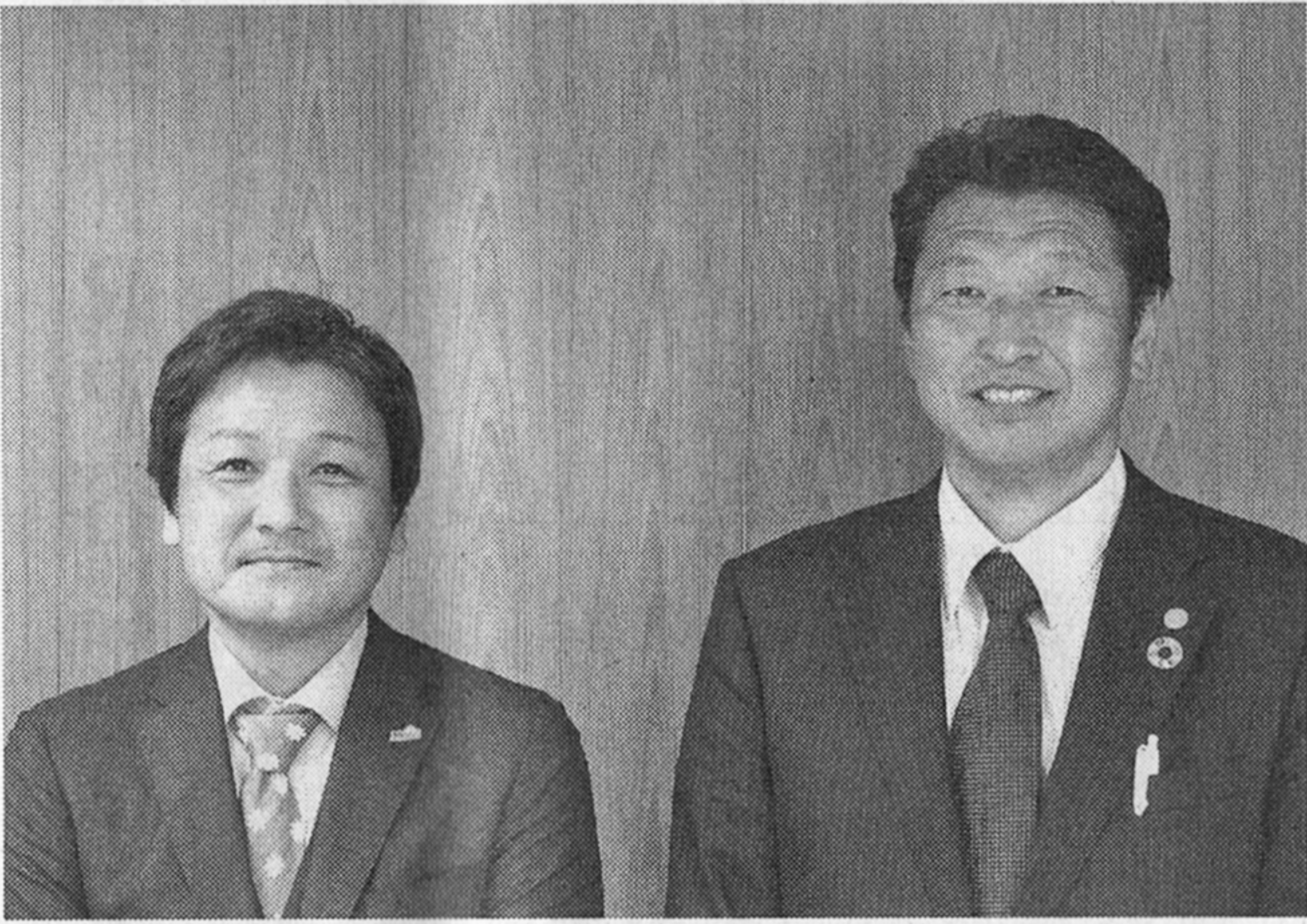
LPG車特集2019

昨年暮れに見直された国土強靱化基本計画は、輸送用燃料の極端なガソリン依存からの脱却を掲げている。その代替燃料車として位置付け向上に期待がかかるのがLPG車だ。災害に強く、環境に優しく、経済性の面でも他の追随を許さないLPG車は自治体や一般企業も大いに利用できる可能性を持つ。課題は認知度と使い勝手の向上、そして適切な提案スキームの確立だ。全国の特徴的な導入事例や車両に関する情報などからLPG車市場再活性化のヒントを探る。

パワーと経済性両立 コミュニティバス継承

日の出タクシー 横須賀市

日の出タクシー(大塚 寿幸社長)は昨年12月、様のコミュニティバスを試験運行している。地



大塚寿幸社長(左)と佐藤重之・高田屋エネルギー事業部長

域の交通利便性向上に寄与しながら、本業のタクシー事業との相乗効果を狙う。採算性の確保が難しいコミュニティバス事業だが、LPGガスを主燃料とすることで燃料費を約半分に圧縮。災害に強いエネルギー特性を生かし、車両を緊急時の輸送手段として役立てることも視野に入れる。

横須賀市は急峻な丘陵の斜面に住宅が密集する坂道の街。急勾配地形特有の交通不便を解消しようと、地元自治会などが2012年から自主運行していたのがコミュニティバス「ハマちゃんバス」だ。地域として継続的に便利に利用したことが最大の目標。タク

ス」だ。

追浜地区東部の高台から京浜急行追浜駅、横浜南共済病院を循環する運行ルートは最大高低差60

シ事業とオートガスを人乗りのトヨタ・ハイエタンドを営む当社は、経済的でクリーンなLPGガスの良さは熟知している」と大塚社長。「本業のPRと施設稼働率の向上もテーマとした。災害に強いエネルギー供給拠点として事業価値を高め、地域貢献に役立てることも検討したい」と話す。

車両に選定したのは10年前は横須賀市にオフィスを設置し、南関東地区の一

「オートコンポ」を設置し社用車のLPGガス化を進める浅野保温。浅野朋幸社長は電源自立型GHPの導入も検討している



固定費圧縮 強靱化も

簡易スタンド導入 町の避難所に

熱絶縁配管工事業の浅野保温(浅野朋幸社長)は社用車のLPGガス化と併せて災害対応型の簡易オートガススタンド「オートコンポ」(カグラペーパーテック製)を導入した。固定費削減とBCP推進が目的。災害時には社屋を一時避難所として開放し、備蓄するLPGガスを利用して炊き出しも行う。扶桑町が民間企業を避難所指定するのは初。国土強靱化基本計画の理念に沿った官民連携モデルとして注目され、地元テレビ局の取材を受けるなど企業価値向上にもつながっている。

設備導入に当たっては2018年度の災害対策補助金と中小企業庁の経営力向上計画を活用した。バルク補助率3分の2に加え、経営力向上計画認定による投資費の当

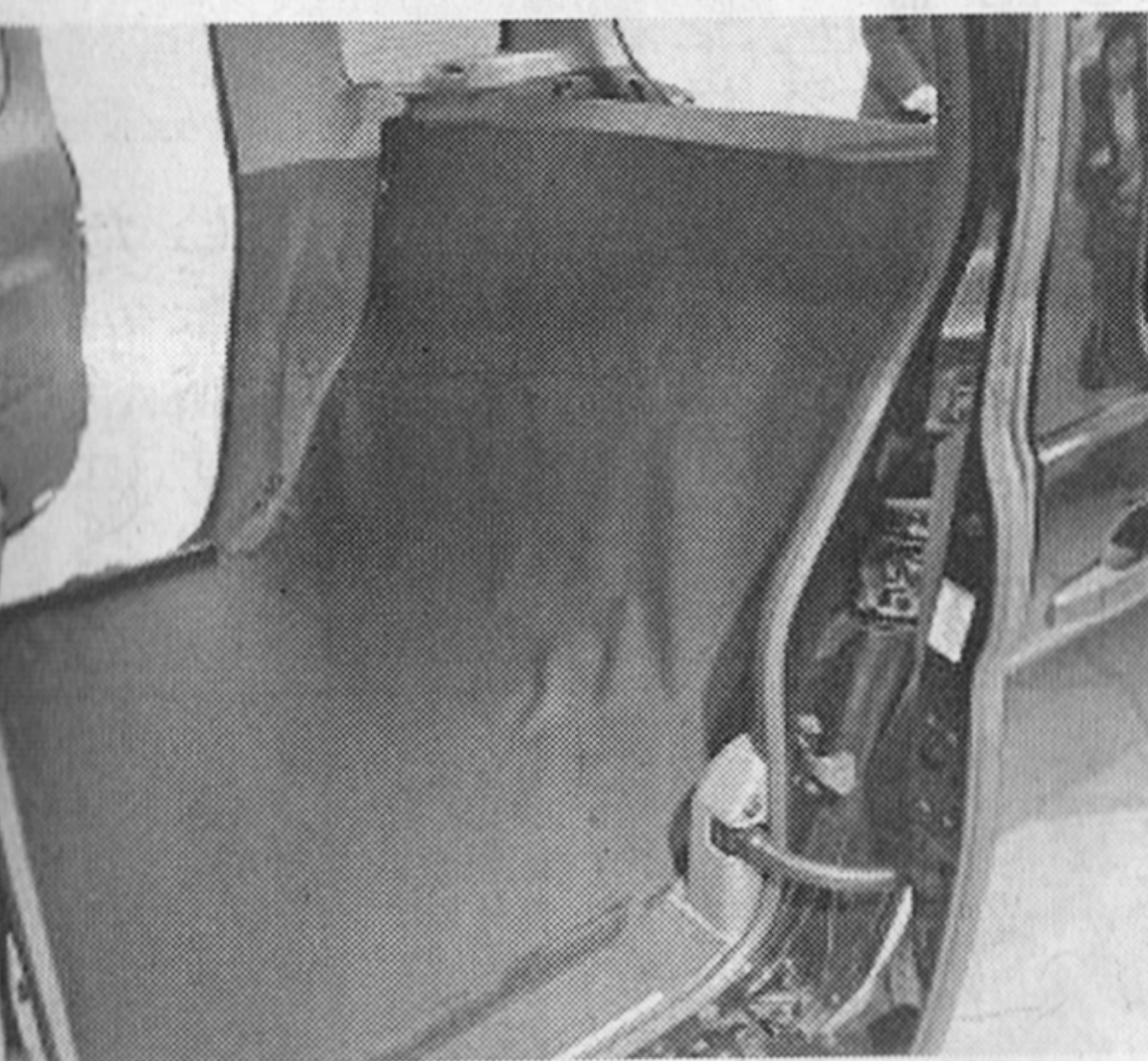
浅野社長は「燃料費削減とBCP強化、地域貢献の二石三鳥を実現する取り組みで、国土強靱化につながるビジネスモデルと考える。今後は電源自立型GHPの導入も視野に、LPGガスをさらに有効活用できる仕組みをつくる」と力を込める。

浅野保温 愛知県扶桑町

横須賀市追浜地区を走る「コミュニティバス「ハマちゃんバス」

ニチガス東京

最新車で一層安全に ジャパントクシー 今期50台導入



物用の試作車両。後部座席を外して空間を最大限広げた。中間にある容器の凹凸をリアとの仕切りした

「賁勿用ジャパントクシー」

で確信を得たマックレーン式キャブを数モデル購入し改良に着手。数年を要したが、その後に見

ヨタに要請し、まずは5台ほど貨物仕様を作ってもらったことになった。もともと天井が高いため、後部座席を外すことでより大きな空間を確保する。構造設計上、LPGガスタンクが車両の中心部に出張る点には、必ずしも変更できないが、必ずしも空間を最大限広げた